昆虫類、菌類の多様性が森林利用によってどのような影響を受けるか

大河内勇（森林総合研究所　森林昆虫研究領域）

北茨城市小川学術参考林を中心とした茨城県北部地方では、昆虫類、菌類の多様性が森林利用によってどのような影響を受けるのか、調査を行っている。伐採から、天然二次林（シイタケ原木林）、原生林に至る天然林の系列、伐採から針葉樹の造林、針葉樹の壮齢林に至る系列の二つのクロノシーケンスにおいて、それぞれ森林利用と森林の生育の影響を調査中である。天然林の系列の結果では、伐採地の群集は、二次林～原生林の群集とかなり異なる、ユニークな群集であること、特に農地などの草原性のハビタットが失われつつある中で伐採地が草原性の昆虫に一時的ではあるがハビタットを提供していることがわかってきた。また、二次林の中には、より古い時代の「切り残し」があり、それが原生林的な環境を好む種の存続に重要な役割を果たした例が見られた。しかし、何故切り残されたのかは、既に地元の古老にも記憶になく、不明である。